



CHUBU DAIICHI GROUP

物流システムに様々な角度から挑戦、
物流の円滑化と環境保全を支援します。

DX戦略の基本方針



中部第一輸送株式会社



代表者メッセージ

当社は、「物流の2024年問題」や労働力不足、環境対応など輸送業を取り巻く課題を重要な経営リスクと捉え、同時に、DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進を大きな機会と捉えています。

今後の中期経営計画においては、データとデジタル技術の活用により、運行効率の最大化、空車率の削減、労務管理の最適化、そしてサステナブルな輸送体制の構築を図ることを目的に、ITによる業務標準化や技術継承を進め、多層下請け構造に依存しない新たな価値提供を目指します。

私たちは、生活と経済のライフラインとしての社会的使命を果たしつつ、持続可能な経営基盤の確立に向けてDXを中核に据え、あらゆるニーズに応えるオールインワン物流サービスの高度化を実現してまいります。

2025年6月9日 代表取締役 森 英貴

経営理念

「人に寄り添い、地球に寄り添う」
～ともに運び、ともに創る。持続可能な未来への架け橋～

〈解説〉

- ・ 「ともに運び」は、顧客と共に価値ある商品やサービスを安全かつ確実に届ける物流の使命を表す
- ・ 「ともに創る」は、顧客・パートナー企業・従業員と協力しながら、より良いサービスや新たな価値を創造する姿勢を示す
- ・ 「持続可能な未来への架け橋」は、当社が取り組む環境保全事業や効率的な物流サービスを通じて、循環型社会と次世代に貢献することを意味する

1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定

(1) 輸送業における業界動向

- ・輸送トンキロベースでは長期トレンドで減少している一方、toB、EC、関連サービス事業、運賃値上げなどの影響で収入は増加傾向にある。
- ・規制緩和で拡大した参入事業者数は、2000年代後半以降60千社超（トラック運送事業者）で高止まっている。
- ・3PLの対応を受けて、様々なタイプ、系列の企業がトラック運送事業に参入しており、得意分野に応じて一定の棲み分けがされている。

1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定

(2) 輸送業における業界構造

- ・国内輸送事業者の市場規模は約30兆円である。その内トラックは20兆円(64.7%)であり、国内経済活動の要となる業種である。
- ・労働集約型で景況感に左右され、参入障壁が低い。そのため、人件費や輸送費の高騰、運賃の値下げ圧力にさらされ易い業種である。
- ・規制緩和で中小事業者が参加し(10車両以下企業が全体の半分)、多層的な下請け構造が形成されている業種である。

1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定

(3) デジタル技術の進化による社会及び競争環境

1. 顧客ニーズの多様化と高度化

- EC市場や3PLの拡大により、納品のスピード・精度・可視化への要求が高まっている。従来型のアナログ運用では対応しきれず、リアルタイムの配送追跡、在庫連携、データドリブンな需要予測など、デジタル技術による対応が必要となる。

2. 競争環境の激化

- ITを活用した新規参入(プラットフォーム型物流や外資系企業)や、荷主の直営化などが進み、従来型の中小輸送事業者は価格・品質の両面で厳しい競争に晒されている。競争優位を確保するには、差別化されたサービス提供や業務効率の向上が不可欠となる。

3. 労働力不足と働き方改革への対応

- デジタル技術の進化により、AIやロボット、クラウドの活用が進み、業務の自動化・効率化を実現し、労働力不足の解消や、多様な働き方を可能にするなどの働き方改革への対応が必要となる。

4. 規制対応と商慣行の変革

- 法改正や荷主への規制強化により、取引の透明化や契約の適正化が求められる。電子化による業務証跡の保存や取引記録の自動管理など、法対応としてもデジタルは不可欠となる。

5. 環境対応・SDGs推進

- CO₂排出削減の観点からも、積載効率の向上、車両運行の最適化、電動車や再生可能エネルギー導入に加え、環境負荷の「見える化」が求められる。

1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定

(4) 経営ビジョン

顧客の“物流パートナー”としての立場を強化し、
デジタルと共創で新たなバリューチェーンを創出する

〔経営方針〕

1. 顧客価値の最大化

- ・DXを活用し、物流の見える化や効率化を推進することで、迅速かつ高品質なサービスを実現
- ・顧客満足度を定期的に計測し、継続的なサービス改善を実施

2. 持続可能な社会への貢献

- ・環境負荷を低減するため、静脈物流やリサイクル事業を強化し、廃棄物削減と資源循環に貢献
- ・パレット洗浄配送サービスを拡充し、資材の再利用を促進

3. DXによる業務改革と生産性向上

- ・物流現場や倉庫管理におけるデジタル化・自動化を加速し、生産性と品質を向上
- ・業務マニュアルやノウハウをクラウドで一元管理し、技術継承と業務標準化を実現

4. 挑戦と変革へ挑み続ける姿勢

- ・他社との差別化を図るため、価格競争を避けた付加価値型サービスを強化

5. 働きがいと人材育成の強化

- ・業務効率化とワークライフバランスを両立し、働きやすい環境を整備

1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定

(5) 企業ビジョン

人とモノをつなぎ、笑顔と信頼を届ける

〈解説〉

- ・ 当社は単なる輸送に留まらず、お客様の課題解決と満足を重視
- ・ 輸送・倉庫・環境・貿易の各事業を通じて、物流を支えるパートナーとして信頼される企業を目指す

【行動指針】

1. 安全・確実な輸送: プロフェッショナルとして細心の注意を払い、安全と品質を守ります。
2. 効率と革新 : DX化や新技術を積極的に活用し、業務効率とサービス品質を向上させます。
3. 環境への貢献 : 静脈物流とリサイクル事業を通じて、循環型社会の実現に寄与します。
4. 人を大切に : 社員の成長と働きやすい環境を整え、チームの結束力を高めます。
5. 顧客第一 : 顧客のニーズを的確に捉え、期待を超えるサービスを提供します。

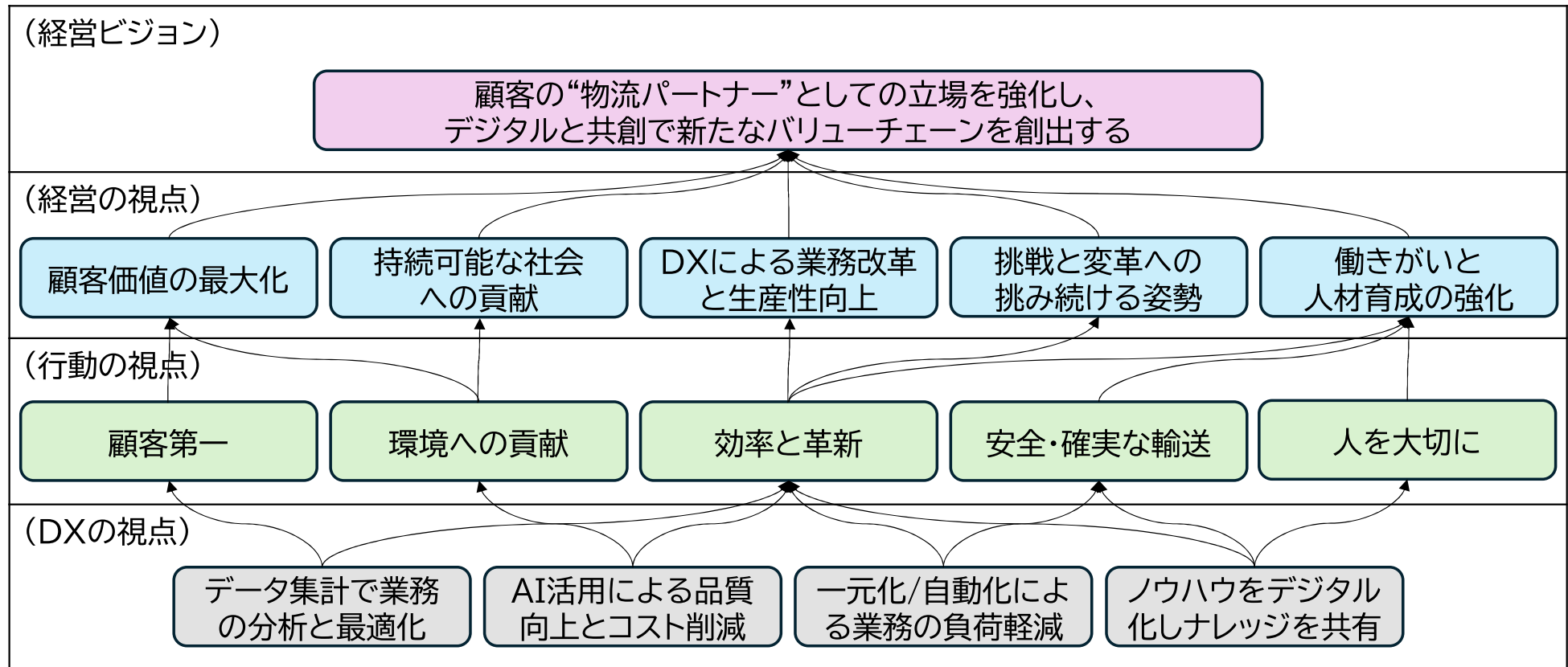
2. DX戦略の策定

(1) 当社の現状

部門	解決すべき問題 (提起)	取り組むべき課題 (立案)
輸送部	①配車管理データを起点に、請求書発行までの一連業務のデータが一元管理できていないため、多重入力による負荷が生じている。また、運行管理の業務は多岐にわたるため、人員不足や負担増が発生している。	①一元化/自動化による業務の負担軽減が必要
流通部	①作業の手順や時間が標準化できていないため、業務の効率化や品質の均一化が困難であり、稼働計画の精度が低い。	①ノウハウをデジタル化しナレッジの共有が必要
環境事業部	①リサイクル処理データを起点に、請求書発行までの一連業務のデータが一元管理できていないため、多重入力による負荷が生じている。 ②人手作業による選別のため、コストの増加と品質の低下に繋がっている。	①一元化/自動化による業務の負担軽減が必要 ②AI活用による品質向上とコスト削減が必要
国際物流部	①通関業務で必要とする書類のペーパーレス化ができていないため、紛失や破損のリスクが高く、保管コストや検索にかかる時間が増加している。また、営業活動が個人の力に委ねられているため、効率的に行われておらず、またノウハウが共有できていない。	①ノウハウをデジタル化しナレッジの共有が必要
総務部	①人手作業の省力化が遅れているバックオフィス業務におけるにおいて、人手不足や生産性の低下などが発生している。 ②当社が保有する様々なデータは、一つのデータベースに集約して効率的に管理できていないため、事業分析や業務改善および意思決定に活かせていない。	①一元化/自動化による業務の負担軽減が必要 ②データ集計で業務の分析と最適化が必要

2. DX戦略の策定

(2)DX戦略マップ



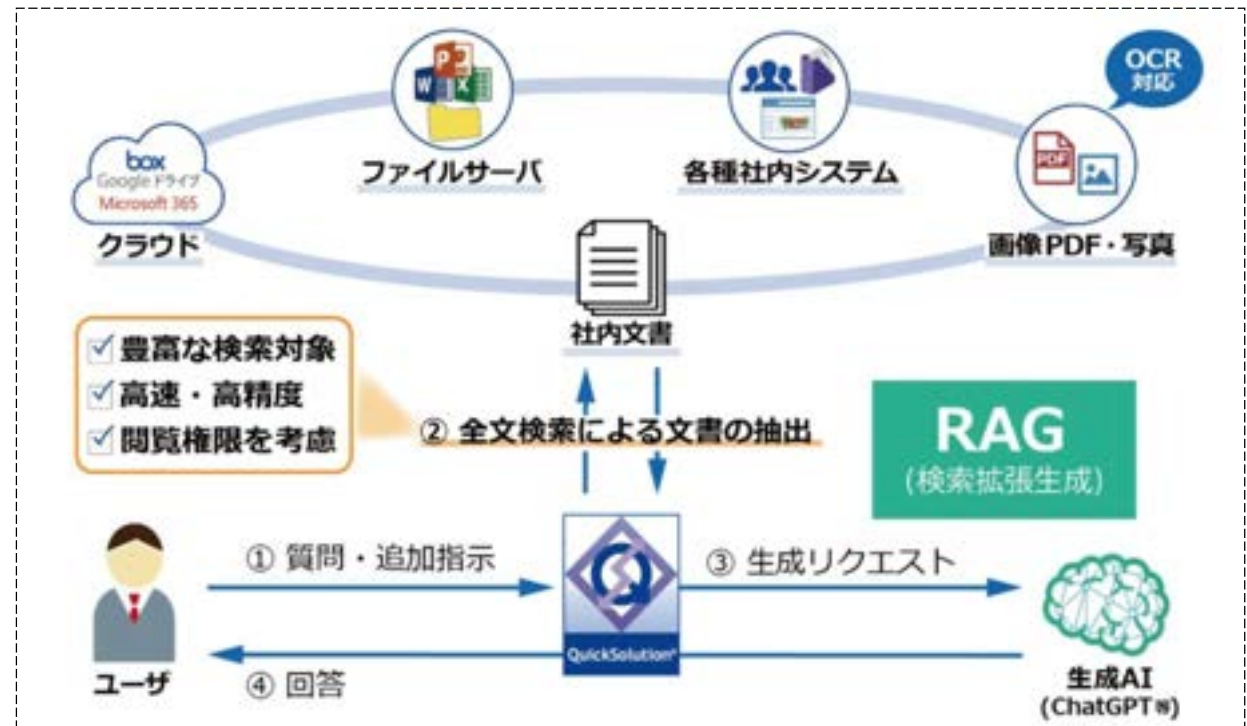
2. DX戦略の策定

(3)戦略①: データ集計で業務の分析と最適化

生成AI(自社データ連携)の構築

生成AIで、データ集計/業務分析および最適化/戦略的意思決定の支援を可能にする。

1. データ集計の支援
 - ・Excelの関数やマクロの自動生成
 - ・大量の表データの要約や傾向抽出
2. 業務分析・最適化の支援
 - ・ボトルネックの特定と改善案の提案
 - ・作業時間の可視化/シミュレーション
3. 戦略的意思決定の支援
 - ・プランニングやリスク予測の補助

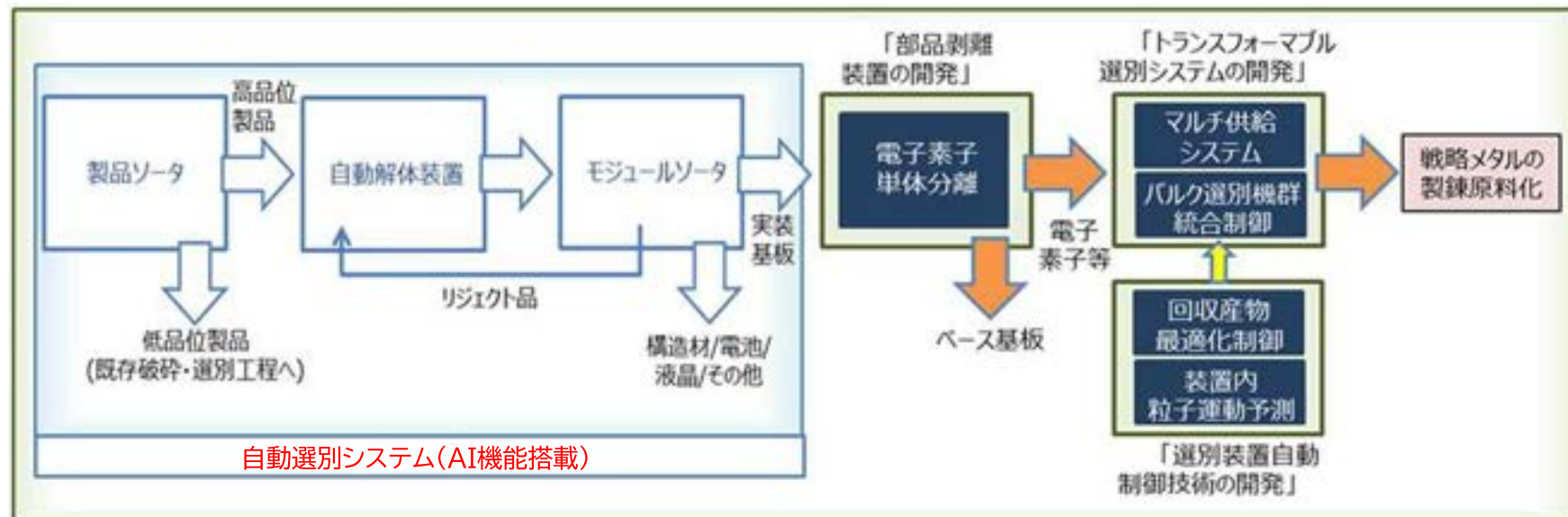


2. DX戦略の策定

(4)戦略②: AI活用による品質向上とコスト削減

破碎分離装置(AI自動選別)の開発

・廃製品を構成する主なモジュールから単体分離・選別するAI機能を搭載した自動選別システムを構築することで、資源回収率の向上と人手削減が可能となり、効率的かつ高精度なリサイクル処理を実現



2. DX戦略の策定

(5)戦略③:一元化/自動化による業務の負荷低減

業務(点呼)の一元化

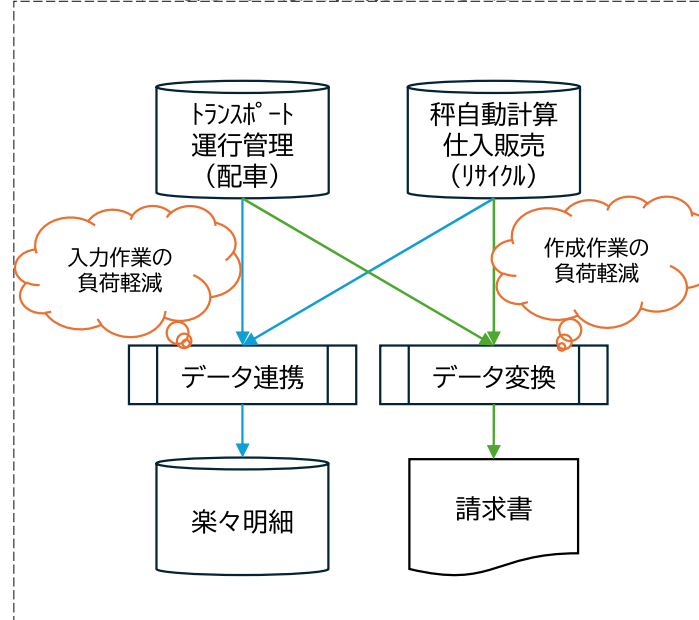
請求書(配車/リサイクル)情報の一元化

人手作業(バックオフィス)の自動化

・遠隔点呼システムの導入



・データ連携/変換機能の強化



・RPAツールの活用



2. DX戦略の策定

(6)戦略④：ノウハウをデジタル化しナレッジを共有

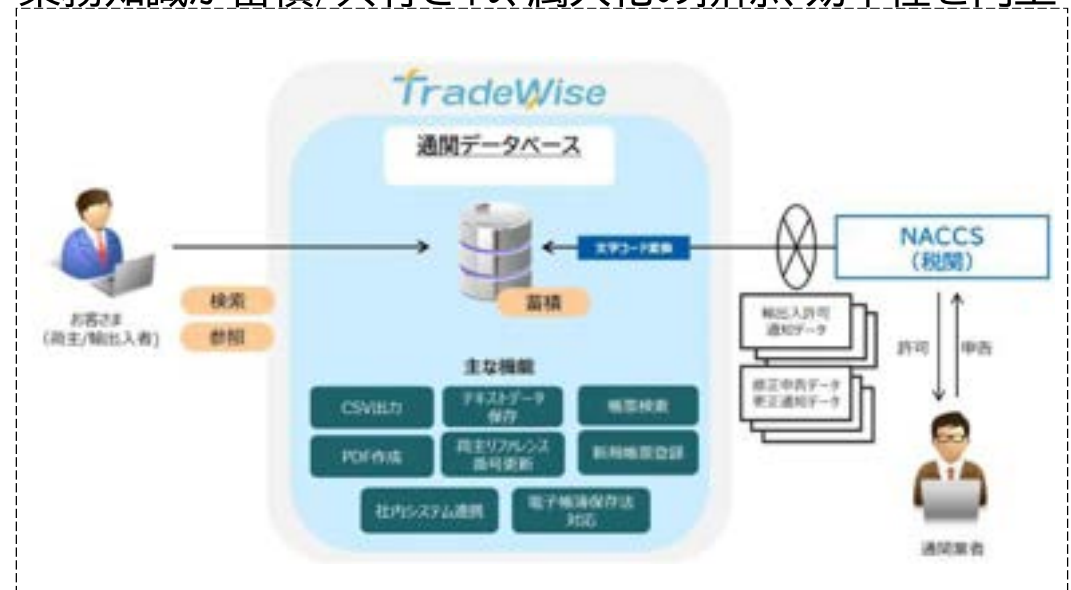
倉庫業務の可視化

- ・作業を最適化し、属人化の排除/作業生産性を向上



通関業務の可視化

- ・業務知識が蓄積/共有され、属人化の排除、効率性を向上



3. DXの推進

(1)組織づくり

1. DX推進部門(専門チーム)の設置

(役割):DX戦略全体の立案・進行管理・効果測定

(目的):経営と現場をつなぐハブ機能として機能させ、現場視点を重視したDXを実行

2.現場との共創体制を構築

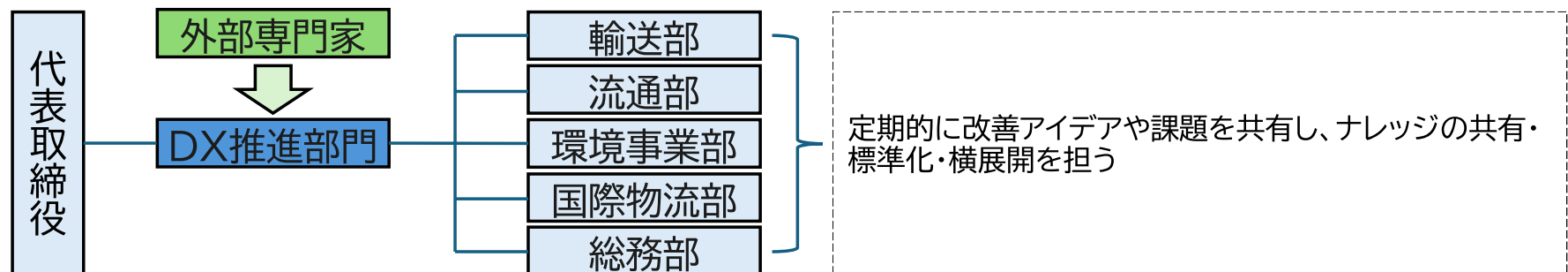
(役割):各部門(輸送部、流通部、環境事業部、国際物流部、総務部など)からメンバーを選出し、定期的に改善アイデアや課題を共有

(目的):ナレッジの共有・標準化・横展開を担う

3. DXコンサルタント等の外部専門家との連携強化

(役割):外部の専門知識と第三者視点を活かし、DX推進部門の戦略立案から実行支援、人材育成までを包括的にサポートを依頼

(目的):社内にはない先端技術や客観性を取り入れることで、DXの実現スピードを高め、プロジェクトの成功確度と組織全体の変革力を向上





3. DXの推進

(2) デジタル人材の育成・確保

1. 社内教育プログラムの整備

- DX戦略を部門単位で推進できる人材の育成
- 分析を通じて意思決定や業務改善を支援する人材の育成
- ナレッジの共有や現場のデジタル化を牽引する人材の育成

2. 人材育成のための外部連携

- DX基礎研修の導入
- DX人材育成カリキュラムの共同開発

3. DX活動を人事評価に反映

- 改善提案、技術習得、プロジェクト参加などを人事評価に反映
- 自動化による時間短縮やコスト削減などの成果に対して報酬を付与

4. 成果指標の設定

(1)DX戦略のKPI

DX戦略	ITシステム・サイバーセキュリティ	計画	成果指標 KPI
①データ集計による業務の分析と最適化	・生成AI(自社データ連携)の構築	2028年 ～ 2030年	・顧客別にカスタマイズした対応の実施件数:5件/年以上
②AI活用による品質向上とコスト削減	・破碎分離装置(AI自動選別)の開発	2026年 ～ 2030年	・リサイクル銅の分別率:20%以上 ※(再資源化された銅資源量)/(総排出量)×100
③一元化/自動化による業務の負担軽減	・業務(点呼)の一元化 ・請求書(配車/リサイクル)情報の一元化 ・人手作業(バックオフィス)の自動化	2026年 ～ 2027年	・業務ごとの処理時間の短縮率:15%以上 ・手作業から自動処理に切り替えた割合:30%以上
④ノウハウをデジタル化しナレッジを共有	・業務プロセス(倉庫/通関)の可視化	2027年 ～ 2028年	・ノウハウ共有による教育時間の短縮割合:30%以上 ・過去事例活用による対応時間の短縮割合:20%以上

4. 成果指標の設定

(2) デジタル人材の育成・確保のKPI

デジタル人材の育成・確保	計画	成果指標 KPI
DX戦略を部門単位で推進できる人材の育成	2026年 ～ 2027年	・ITリテラシーに関する研修を実施:1回/年 ・業務改革意識に関する研修を実施:1回/年 ・プロジェクト推進力に関する研修を実施:1回/年
分析を通じて意思決定や業務改善を支援する人材の育成	2028年 ～ 2029年	・Excelに関する研修を実施:1回/年 ・統計知識に関する研修を実施:1回/年 ・データ可視化・解釈力に関する研修を実施:1回/年
ナレッジの共有や現場のデジタル化を牽引する人材の育成	2029年 ～ 2030年	・教育力、現場コミュニケーション力に関する研修を実施:1回/年
DX活動を人事評価に反映	2026年 ～ 2030年	・DX推進に必要な行動(提案・チャレンジ・横断的な協業など)を 評価項目に追加

50年以上の実績と経験で信頼と安全を提供し、
お客様のあらゆるニーズに応える
多様な輸送サービスを展開していきます。



中部第一輸送株式会社